

少年時代

作詞・作曲者 井上陽水(1948－)。福岡県生まれ。本名は陽水^{あきみ}。1969年にアンドレ・カンドレの名でデビュー。72年に改名し、73年の「夢の中へ」が初のヒット曲となる。同年に発表された『氷の世界』は日本初のミリオンセラーアルバム。75年には吉田拓郎らと「フォーライフレコード」設立。多方面で活躍中。

作曲者 平井夏美(1950－)。東京都生まれ。作曲家、編曲家、ディレクター。本名は川原伸司。松田聖子、岩崎宏美、渡辺満里奈ほかに作品を提供。松田聖子が歌った「瑠璃色の地球」が有名。

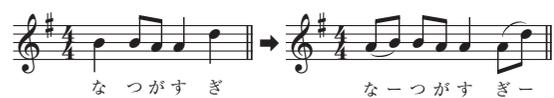
編曲者 森垣桂一(→本書p.80)

楽曲解説

1990年の東宝映画『少年時代』の主題歌として知られる。借用和音を使っている中間部以外は、同じコード進行に、ハーモニーがついている。

取り扱い上の要点

●井上陽水がこの曲を歌ったCDを聴き、ポルタメントや微妙なリズムのずれを感じ、譜例のような歌い方に取り組ませることによって、いろいろな歌い回しを工夫し、楽譜に書けない音を知る。



●歌詞に「a」の母音が多く用いられているので、それぞれの言葉に合った発音を工夫する。「y」子音もたくさんあるが、[i]の響きを十分に準備して発音する。「わたし……」の出だしの「w」も同様に、[u]の響きを準備し発音する。

●「おもいでのおとさき」のデクレシェンドを自然にする。

●最後のHum.は、よく鼻腔を共鳴させる。

●リズム・セクションにスネア・ドラムを加えたり、ベース・パートにエレキ・ベースなどの楽器を加え、音を充実させる。

伴奏譜…別冊p.14

島唄

作詞・作曲者 宮沢和史(1966－)。山梨県生まれ。1986年、ロックバンド「THE BOOM」を結成。路上ライブで人気を高め、89年メジャー・デビュー。リーダー兼ヴォーカリストとして、同バンドのほとんどの楽曲を作詞・作曲。ソロ活動においても、沖縄、ブラジル、アルゼンチンなど幅広い世界の音楽との交流を積極的に行う他、多くのアーティストに楽曲を提供している。

編曲者 尾形敏幸(1956－)。東京都生まれ。作曲家。合唱曲や器楽曲などの作曲の他、ポップス系の作品提供や編曲も手がけている。

楽曲解説

「島唄」とは本来、沖縄の長い歴史の中で生まれ育まれてきた、島の唄のこと。この曲は英米ロックを聴いて育ち、スカ系のビート・バンドとしてデビューしたTHE BOOMの宮沢和史が、沖縄の音楽と風土、歴史に出会ったことから生まれた。

「流行に流されないように」という逆説的な意味をこめたバンド名のとおり、常に自分らしい音楽を探し求めていた宮沢は1991年、初めて旅した沖縄で、美しい風景や三線の音に出会い、過酷な歴史を知る。翌年、思いを歌詞に託し、三線と沖縄の音階を取り入れたこの「島唄」が誕生。宮沢は「沖縄の精神を消化し、広がりをもたせたい」と、間奏部分を西洋風のアレンジにしている。

当初沖縄のために作ったというこの歌も、日本全国に広がり、やがて2001年にはアルゼンチンで「SHIMAUTA」として大ヒット。02年サッカー・ワールドカップでアルゼンチンの公式サポートソングとして歌われた。

取り扱い上の要点

●沖縄音階の特徴をとらえ、その響きを感じ取りながら歌う。

●歌詞の内容を理解し、情感をこめて歌う。

伴奏譜…別冊p.16 (大橋悦子)

北国の春

作詞者 いではく(本名・井出博正1941－)。長野県生まれ。作詞家。作曲家の遠藤実^{まこと}に師事し作詞の道に入る。作詞を手がけた作品はこれまでに300曲以上。

作曲者 遠藤実(1932－2008)。東京都生まれ。戦後の日本歌謡界を代表する作曲家の一人。「高校三年生」「星影のワルツ」「せんせい」「くちなしの花」など多数のヒット曲がある。2009年国民栄誉賞受賞。

楽曲解説

1977年に千昌夫が歌いヒットし、ロングセラーを記録した。

都会で1人暮らしをしている元に田舎の母から小包が届き、故郷の春を迎える様子や、家族の思い出、恋人を想う詩に、冒頭の歌い出しから、故郷の風景を思い起こさせる力強い表現が、人々の心を揺さぶる。教科書は2番までだが、歌詞は3番まであり、3番では「2人で酒でも飲んでいるだろうか」と、兄と父親に思いを馳せている。

ヨナ抜き音階で構成されており、国際的にも有名な日本の歌謡曲として中国語やタイ語などの歌詞をつけたカバー・バージョンがアジア諸国を中心に人気がある。

取り扱い上の要点

●詩(歌詞)の内容をよく理解し、内容を味わいながら歌う。

●「かえろうかな」は、気持ちを込めて歌うようにする。「こぶし」を効かせすぎて、ポルタメントにならないように注意して、声の伸びやかさをもって歌えるように。

●ヨナ抜き音階の響きを感じ取り歌う。

●故郷を思い浮かべ歌う楽曲を探してみるのもよい。

伴奏譜…別冊p.22

とびら開けて

訳詞者 高橋知伽江(1956－)。新潟県生まれ。劇作家、翻訳家。東京外国語大学ロシア語学科卒。**作曲者** K.ロペス(Kristen Anderson-Lopez、生年不詳)。アメリカのソングライター。2003年、ロバート・ロペスと結婚。

R.ロペス(Robert Lopez、1975－)。ニューヨーク生まれ。作曲家。夫婦で『くまのプーさん』『アナと雪の女王』など、主にディズニー映画やミュージカルの音楽を手掛ける。14年、『アナ雪』の主題歌「LET IT GO」でアカデミー賞歌曲賞、グラミー賞を受賞。ロバートはエミー賞、トニー賞も受賞しており、4冠達成と話題になった。

楽曲解説

楽曲については教科書のMemo欄を参照。アナとハンス王子との会話のように、自然なメロディーの掛け合いで始まる。cheezy grooveという指示があるとおり、ミュージカルによくみられる、芝居がかったセリフ回しを意識して、歌うというより語りかけるようにはっきりとした発声で、リズムミカルにメロディーを紡いでいくとよいだろう。

2重唱で「ふたりだから」「とびらあけて」と歌うところは、会話調から一転、オクターヴの跳躍と高音で長くのばす音が印象的。屋外で心身ともに自由に羽を伸ばしている開放感が伝わってくる。

二長調からホ長調に転調し、また会話調と伸びやかな歌唱が繰り返される。

取り扱い上の要点

●会話調の部分と伸びやかに歌う部分の表現を工夫する。

●シンコペーションのリズムや細かい音符の動き、臨時記号を含む音程など、譜読みに注意が必要だが、ストーリーと歌詞の内容を理解し、ぎこちなくなることなく、自然な歌唱を目指す。

●アニメ映画『アナと雪の女王』を鑑賞したり、他の楽曲も聴いてみるのもよい。原語版と日本語版を比べてみるのもよい。(大橋悦子)

伴奏譜…別冊p.24